

1-6-④ 災害に強い県土づくり

これまでの状況

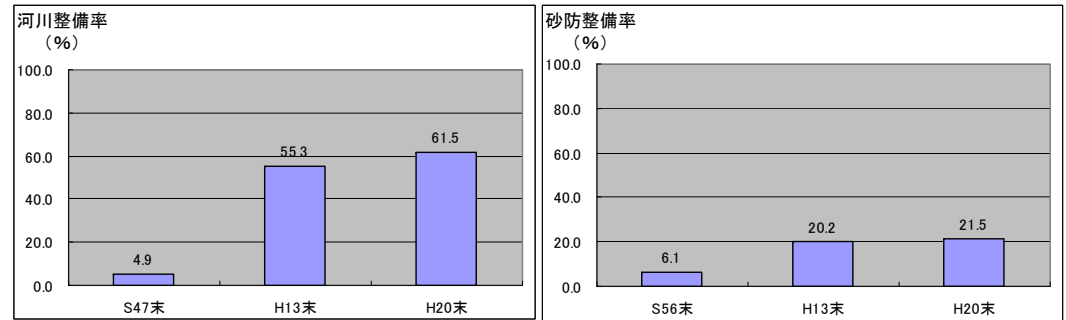
○河川及び海岸については概ね5割を超える整備水準まで上昇したものの、砂防・地すべり・急傾斜については全体的に整備水準が低い状況。

現計画における主要な取組

- 近年、浸水被害が頻発している比謝川（沖縄市）、国場川・安里川（那覇市）、小波津川（西原町）等の都市河川において重点的に河川改修を実施。
- 土砂災害対策については、災害時の緊急輸送路や人命保全上重要な施設の保全を重点的に実施。
- 海岸事業については、自然環境や生態系に配慮した、利用しやすい快適な海岸の復元・創造を推進。

今後の課題

- 大規模災害対策
 - ・豪雨による河川氾濫や土砂災害など気候変動に関連した災害の頻発
 - ・大規模災害時、全国並みの国の支援は不可能（沖縄のみ遅れている）
 - ・大規模地すべり危険箇所の調査知見が不足し、結果予防対策が実施されていない（災害後の復旧に終始）
- 地球温暖化対応
 - ・サンゴリーフの衰退と地球温暖化に伴う海面上昇により高潮災害の激化が予測・対策必要
 - ・今後の気候変動による洪水リスクの増大
- ゲリラ豪雨対応
 - ・報得川・ガープ川災害を例とする、都市型水害の多発
 - ・洪水予報・土砂災害警戒情報や水防警報の予警報等の強化
 - ・全国の都市型水害多発地域と同程度の対策（整備）の実施が必要



河川事業

地すべり事業

海岸事業(高潮対策)

中城村安里地区
H20.7月

安里川河川改修事業の完成予想図

東江海岸(完成予想図)

